

訪問教育

1 目指す児童像

「自分らしく豊かな生活を送る子」

健康面や体力面で不安があり、家庭での療養生活が続いている子どもたちの教育の空白を埋めるべく訪問教育を行っている。教育活動を担保するために、まず個々の体調や生活リズムに合わせた活動や個々に応じた教育課程を設け、安心して取り組む環境を整える必要があると考える。

活動する中で、自分の様々な心の動き(興味や関心、望み等)に気付き、周りの人に表出し伝える体験を積むことで、自己肯定感のある充実した生活を送る子を目指していく。

2 目標

○健康

- ・健康的に過ごし生活のペースをつかみ、自分なりに活動することができる。

○気付き

- ・身近な人との関わりや活動の中で、自己の感情や他者の存在、物、外気などに嗜好性を持ち気付くことができる。

○関わり

- ・自分に合った方法で、表出し伝え表現することができる。